

4・1 微生物科

4・1・1 昭和55年度伝染病流行予測調査

厚生省委託事業、単県行政委託事業、衛生研究所調査研究事業と事業主管が異なるが、目的と方法が共通するので、各事業の成績を一括した。なお、本調査の成績並びに要旨は、「伝染病流行予測調査報告書 第18号(昭和55年度)」に収録した。

(1) インフルエンザ感染源調査成績

11施設の集団発生例、107名について調査を行い、15名からインフルエンザウイルスを分離した。これらのウイルス分離と血清診断の成績は、表に示すとおりである。

インフルエンザ様患者のウイルス分離と血清診断

調査年月	集団発生施設名	調査人員	血清診断							ウイルス分離 分離数 検体数	分離 ウイル ス型別		
			A H1N1型			A H3N2型		陽性 検体数					
			A/ USSR /92/77	A/ 福島 /103/78	A/ 熊本 /37/79	A/ 山梨 /2/77	A/ Bangkok /1/79	A s w N1型 A/NJ /8/76	B 型 B/ 神奈川 /3/76			B 型 B/ 鳥取 /98/80	
55.4	八橋小学校	9	0/8	0/8		0/8			0/8	3/8	4/8	1/9	B型
55.4	小田小学校	10	0/10	0/10		0/10			0/10	4/10	3/10	1/10	B型
55.4	浜村小学校	10	0/10	0/10		0/10			0/10	4/10	4/10	0/10	
55.4	大栄小学校	10	0/10	0/10		0/10			0/10	4/10	3/10	2/10	B型
55.5	大栄小学校	8	0/7	0/7	0/7	2/7			0/7	0/7	0/7	0/8	
55.12	弓ヶ浜小学校	10	0/10	0/10	6/10	0/10	0/10		0/10	0/10		0/10	
56.2	境水産高校	10		5/8	5/8	0/10	0/10		1/8	0/8		0/10	
56.2	津ノ井小学校	10		5/10	4/10	0/10	0/10		2/10	0/10		0/10	
56.2	浜坂小学校	10										5/10	A(H1N1)型
56.2	希望の家	10		0/10	0/10	0/10	0/10		0/10	0/10		0/10	
56.3	明倫小学校	10		7/9	9/9	0/9	0/9		2/9	9/9		6/10	A(H1N1)型
	計	107	0/55	17/92	24/54	2/94	0/49		5/92	24/92	14/45	15/107	B型 4 A型 11

血清診断陽性：急性期血清抗体価に対し、回復期血清抗体価が4倍以上上昇したもの

(2) インフルエンザ感受性調査成績

県下5保健所管内379名につき、7月～10月に採血された血清中のインフルエンザウイルスに対する赤血球凝集抑制抗体価を測定した。使用した抗原は、A / 熊本 / 37/79、A / 福島 / 103/78、A / USSR / 92/77、A / 山梨 / 2/77、A / Bangkok / 1/79、A / NJ / 8/76、B / 神奈川 / 3/76の7種類である。各抗原に対する年齢別抗体保有状況は、表1～表7のとおりである。昨年度と同じ調査成績と比較すると、9歳以下の年齢層で、A / NJ / 8/76を除くA型に対する抗体保有率が高くなっており、特にA / 福島 / 103/78、A / USSR / 92/77において著明であった。

表1 A / 熊本 / 37/79 HI抗体保有状況

(%)

年齢階層 (才)	調査 人員	H I 抗体 価							32≤ 平均価
		<32	32	64	128	256	512	1024 ≤	
0～4	17	11 (64.7)		2 (11.8)	3 (17.6)	1 (5.9)			2 ^{6.33}
5～9	67	19 (28.3)	3 (4.5)	16 (23.9)	17 (25.4)	11 (16.4)	1 (1.5)		2 ^{6.81}
10～19	192	43 (22.4)	13 (6.8)	40 (20.8)	60 (31.3)	29 (15.1)	5 (2.9)	2 (1.0)	2 ^{7.40}
20～29	47	22 (46.8)	13 (27.7)	5 (10.6)	5 (10.6)	2 (4.3)			2 ^{5.82}
30～39	22	9 (40.9)	7 (31.8)	5 (22.7)	1 (4.6)				2 ^{5.54}
40～49	16	7 (43.7)	4 (25.0)	2 (12.5)		2 (12.5)	1 (6.3)		2 ^{6.33}
50～59	14	12 (85.8)	1 (7.1)				1 (7.1)		2 ^{7.00}
60～	4	4 (100)							
計	379	127 (33.5)	41 (10.8)	70 (18.5)	86 (22.7)	45 (11.9)	8 (2.1)	2 (0.5)	2 ^{6.66}

表2 A / 福島 / 103/78 HI抗体保有状況

(%)

年齢階層 (才)	調査 人員	H I 抗体 価							32≤ 平均価
		<32	32	64	128	256	512	1024 ≤	
0～4	17	10 (58.8)	1 (5.9)	2 (11.8)	3 (17.6)	1 (5.9)			2 ^{6.57}
5～9	67	18 (26.8)	9 (13.4)	15 (22.4)	15 (22.4)	5 (7.5)	4 (6.0)	1 (1.5)	2 ^{5.92}
10～19	192	41 (21.3)	16 (8.3)	32 (16.7)	59 (30.8)	28 (14.6)	11 (5.7)	5 (2.6)	2 ^{7.44}
20～29	47	11 (23.4)	10 (21.4)	12 (25.5)	8 (17.0)	4 (8.5)	1 (2.1)	1 (2.1)	2 ^{6.36}
30～39	22	3 (13.7)	6 (27.2)	12 (54.5)		1 (4.6)			2 ^{5.79}
40～49	16	7 (43.7)	2 (12.5)	3 (18.7)	1 (6.3)	2 (12.5)		1 (6.3)	2 ^{6.78}
50～59	14	12 (85.8)		1 (7.1)			1 (7.1)		2 ^{7.00}
60～	4	3 (75.0)	1 (25.0)						2 ^{5.00}
計	379	105 (27.7)	45 (11.9)	77 (20.3)	86 (22.7)	41 (10.8)	17 (4.5)	8 (2.1)	2 ^{6.75}

表3 A/USSR/92/77HI抗体保有状況

(%)

年齢階層 (才)	調査 人員	H I 抗体価							32 ≤ 平均価
		<32	32	64	128	256	512	1024 ≤	
0~4	17	10 (58.8)		2 (11.8)	1 (5.8)	2 (11.8)	2 (11.8)		2 ^{7.57}
5~9	67	7 (10.5)	4 (6.0)	8 (11.9)	8 (11.9)	15 (22.4)	15 (22.4)	10 (14.9)	2 ^{7.98}
10~19	192	30 (15.6)	15 (7.8)	10 (5.2)	32 (16.7)	54 (28.1)	41 (21.4)	10 (5.0)	2 ^{7.33}
20~29	47	11 (23.4)	10 (21.3)	12 (25.5)	7 (14.9)	5 (10.6)	2 (4.3)		2 ^{6.36}
30~39	22	3 (13.7)	8 (36.4)	9 (40.8)		2 (9.1)			2 ^{5.79}
40~49	16	5 (31.3)	1 (6.3)	6 (37.5)	2 (12.5)		1 (6.2)	1 (6.2)	2 ^{6.73}
50~59	14	8 (57.2)	4 (28.6)	1 (7.1)		1 (7.1)			2 ^{5.67}
60~	4	4 (100)							
計	379	78 (20.5)	42 (11.0)	48 (12.7)	51 (13.5)	79 (20.8)	61 (16.0)	21 (5.5)	2 ^{7.46}

表4 A/山梨/2/77HI抗体保有状況

(%)

年齢階層 (才)	調査 人員	H I 抗体価							32 ≤ 平均価
		<32	32	64	128	256	512	1024 ≤	
0~4	17	8 (47.0)	1 (5.9)		5 (29.4)	2 (11.8)	1 (5.9)		2 ^{7.22}
5~9	67	4 (6.0)	5 (7.5)	12 (17.8)	15 (22.4)	15 (22.4)	10 (14.9)	6 (9.0)	2 ^{7.49}
10~19	192	26 (13.5)	47 (24.5)	55 (28.6)	27 (14.1)	22 (11.4)	12 (6.3)	3 (1.6)	2 ^{6.43}
20~29	47	24 (51.0)	14 (29.8)	8 (17.1)	1 (2.1)				2 ^{5.44}
30~39	22	11 (50.1)	3 (13.6)	5 (22.7)	3 (13.6)				2 ^{6.00}
40~49	16	7 (43.8)	4 (25.0)	5 (31.2)	4 (25.0)				2 ^{5.44}
50~59	14	10 (71.5)		3 (21.4)	1 (7.1)				2 ^{6.25}
60~	4	3 (75.0)	1 (25.0)						2 ^{5.00}
計	379	93 (24.6)	76 (20.1)	87 (23.0)	52 (13.7)	59 (10.2)	23 (6.1)	9 (2.3)	2 ^{6.79}

表5 A/Bangkok/1/79 HI 抗体保有状況

(%)

年齢階層 (才)	調査 人員	H I 抗 体 価							32 ≤ 平均価
		<32	32	64	128	256	512	1024 ≤	
0 ~ 4	17	9 (53.0)	4 (23.5)	3 (17.7)	1 (5.8)				25.63
5 ~ 9	67	17 (25.3)	14 (20.9)	18 (26.9)	10 (14.9)	6 (9.0)	1 (1.5)	1 (1.5)	26.30
10 ~ 19	192	79 (41.8)	60 (31.1)	35 (18.2)	11 (5.7)	6 (3.1)	1 (0.5)		25.70
20 ~ 29	47	38 (80.8)	8 (17.0)	1 (2.2)					25.11
30 ~ 39	22	14 (63.6)	6 (27.3)	2 (9.1)					25.25
40 ~ 49	16	14 (87.5)	2 (12.5)						25.00
50 ~ 59	14	13 (92.9)	1 (7.1)						25.00
60 ~	4	3 (75.0)	1 (25.0)						25.00
計	379	187 (49.4)	96 (25.3)	59 (15.6)	22 (5.7)	12 (3.2)	2 (0.5)	1 (0.3)	25.79

表6 A/NJ/8/76HI 抗体保有状況

(%)

年齢階層 (才)	調査 人員	H I 抗 体 価							32 ≤ 平均価
		<32	32	64	128	256	512	1024 ≤	
0 ~ 4	17	16 (94.1)	1 (5.9)						25.00
5 ~ 9	67	66 (98.5)	1 (1.5)						25.00
10 ~ 19	192	180 (93.9)	6 (3.0)	5 (2.6)	1 (0.5)				25.58
20 ~ 29	47	45 (95.8)	1 (2.1)	1 (2.1)					25.50
30 ~ 39	22	22 (100)							
40 ~ 49	16	16 (100)							
50 ~ 59	14	9 (64.3)	5 (35.7)						25.00
60 ~	4			1 (25.0)	2 (50.0)	1 (25.0)			27.00
計	379	354 (93.4)	14 (3.7)	7 (1.8)	3 (0.8)	1 (0.3)			25.64

表7 B / 神奈川 / 3/76 HI抗体保有状況

(%)

年齢階層 (才)	調査 人員	H I 抗体価							32 ≤ 平均値
		<32	32	64	128	256	512	1024 ≤	
0 ~ 4	17	17 (100)							
5 ~ 9	67	33 (49.2)	19 (28.4)	8 (11.9)	5 (7.5)	2 (3.0)			2 ^{5.71}
10 ~ 19	192	47 (24.5)	75 (39.1)	50 (26.0)	18 (9.4)	2 (1.0)			2 ^{5.63}
20 ~ 29	47	28 (59.6)	15 (31.8)	2 (4.3)	2 (4.3)				2 ^{5.32}
30 ~ 39	22	19 (86.3)	3 (13.7)						2 ^{5.00}
40 ~ 49	16	13 (81.3)	2 (12.5)				1 (6.2)		2 ^{6.33}
50 ~ 59	14	11 (78.6)	3 (21.4)						2 ^{5.00}
60 ~	4	4 (100)							
計	379	172 (45.4)	117 (30.9)	60 (15.8)	25 (6.5)	4 (1.1)	1 (0.3)		2 ^{5.61}

(3) 日本脳炎感染源調査

7月上旬から9月中旬まで、各旬1回30頭、計8回240頭の県内産、生後5~8ヶ月の豚について、赤血球凝集抑制抗体の保有状況を調査した。抗体保有率が50%に達した時点は、9月中旬調査の終る直前で、中国5県中最も遅く、昭和55年度に県内における日本脳炎患者の発生はなかった。各旬の豚抗体保有状況は、表のとおりである。

豚HI抗体保有状況

採血 月日	検査 数	H I 抗体価								H I 抗体保有 率 %	2ME感 受性抗体 陽性率%	飼育地別抗体保有状況 抗体保有数 検査数
		<10	10	20	40	80	160	320	640			
7	7	30	30							0		大栄町 $\frac{0}{10}$ 、倉吉市 $\frac{0}{10}$ 、赤碕町 $\frac{0}{10}$
	15	30	30							0		大栄町 $\frac{0}{10}$ 、大山町 $\frac{0}{10}$ 、米子市 $\frac{0}{10}$
	23	30	30							0		大山町 $\frac{0}{10}$ 、倉吉市 $\frac{0}{10}$ 、大栄町 $\frac{0}{10}$
8	4	30	30							0		米子市 $\frac{0}{10}$ 、大山町 $\frac{0}{10}$ 、赤碕町 $\frac{0}{10}$
	12	30	30							0		米子市 $\frac{0}{10}$ 、大栄町 $\frac{0}{10}$ 、大山町 $\frac{0}{10}$
	26	30	24	1	4	1				20	0	関金町 $\frac{2}{10}$ 、大栄町 $\frac{2}{10}$ 、倉吉市 $\frac{2}{10}$
9	3	30	18	1	1	5	4	1		40	50	大栄町 $\frac{5}{10}$ 、大山町 $\frac{3}{10}$ 、米子市 $\frac{4}{10}$
	10	30	8	1	10	10	1			73	27	大栄町 $\frac{8}{10}$ 、赤碕町 $\frac{7}{10}$ 、米子市 $\frac{7}{10}$

(4) 風疹抗体調査成績

7月～10月に採血した女子中学生158名及び各保健所管内一般健康者226名の風疹に対する赤血球凝集抑制抗体保有状況を、表1と表2に示した。なお、窓口受託による妊婦を主とする19～35歳の女子の風疹赤血球凝集抑制抗体保有状況は、表3に示すとおりで、流行が心配されるためか、この年齢層の風疹抗体検査依頼が急激に増加している。

表1 女子中学生風疹HI抗体保有状況

(%)

調査人員	H I 抗 体 価								
	<8	8	16	32	64	128	256	512	1024
158	125 (79.1)	1 (0.6)	3 (1.9)	9 (5.7)	9 (5.7)	10 (6.3)	1 (0.6)		

表2 年齢別風疹HI抗体保有状況

(%)

年齢階層 (才)	調 査 人 員	H I 抗 体 価							
		<8	8	16	32	64	128	256	512
3	15	15 (100)							
4～5	17	14 (82.4)				3 (17.6)			
7～10	56	28 (50.0)	2 (3.6)	1 (1.8)	6 (10.7)	14 (25.0)	5 (8.9)		
12～15	178	132 (74.0)	1 (0.5)	3 (1.6)	16 (9.0)	14 (7.8)	12 (6.6)	1 (0.5)	
18～19	10	8 (80.0)			2 (20.0)				
20～24	35	16 (45.7)		3 (8.6)	3 (8.6)	3 (8.6)	6 (17.1)	2 (5.7)	2 (5.7)
25～29	12	1 (8.3)	1 (8.3)	5 (41.8)	4 (33.3)		1 (8.3)		
30～39	27	2 (7.4)	3 (11.1)	10 (37.0)	7 (25.9)	5 (18.6)			
40～49	16	2 (12.5)	4 (25.0)	7 (43.8)	2 (12.5)	1 (6.2)			
50～	18	1 (5.6)	3 (16.6)	9 (50.0)	3 (16.6)	1 (5.6)	1 (5.6)		
計	384	219 (57.0)	14 (3.6)	38 (9.9)	42 (10.9)	41 (10.7)	25 (6.0)	3 (0.8)	2 (0.5)

表3 妊婦風疹HI抗体保有状況

(%)

調査人員	HI 抗体価								
	< 8	8	16	128	64	128	256	512	1024
1,358	345 (25.4)	93 (6.8)	220 (16.2)	308 (22.7)	228 (16.8)	114 (8.4)	41 (3.0)	9 (0.7)	

(5) 麻疹抗体保有調査成績

7月～10月に採血した、15歳以下108名の一般健康者について、同一血清による麻疹ウイルスに対する赤血球凝集抑制抗体価と補体結合抗体価を測定した。抗体価の保有状況は、それぞれ表1、表2に示すとおりであった。赤血球凝集抑制抗体価と補体結合抗体価の関係は、図2のとおりである。

表1 麻疹HI抗体保有状況

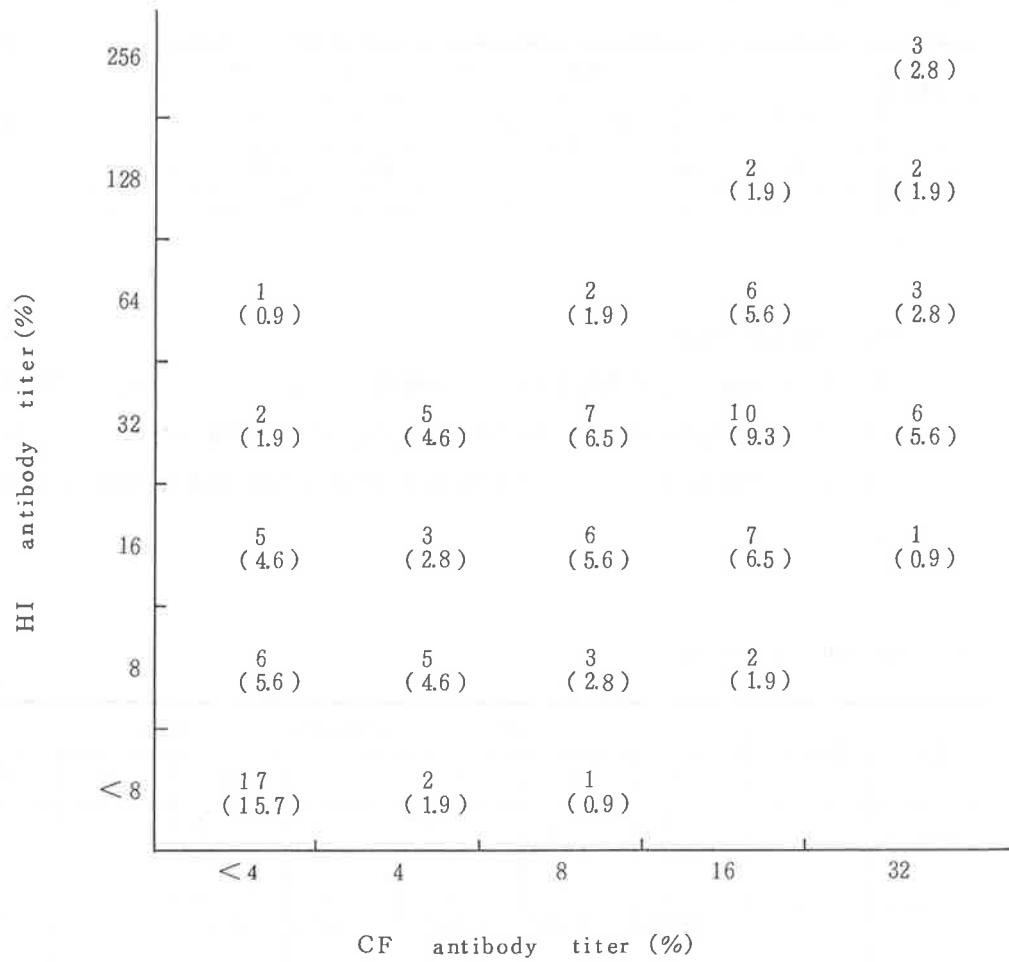
(%)

Age	Total	HI antibody titer						
		< 8	8	16	32	64	128	256
0～4	17	11 (64.7)	1 (5.9)	3 (17.6)	1 (5.9)	1 (5.9)		
5～9	67	6 (9.0)	8 (11.9)	18 (26.9)	22 (32.8)	8 (11.9)	4 (6.0)	1 (1.5)
10～15	24	1 (4.2)	9 (37.5)	1 (4.2)	8 (33.3)	3 (12.5)		2 (8.3)
Total	108	18 (16.7)	18 (16.7)	22 (20.4)	31 (28.7)	12 (11.1)	4 (3.7)	3 (2.7)

表2 麻疹GF抗体保有状況

(%)

Age	Total	GF antibody titer				
		< 4	4	8	16	32
0～4	17	12 (70.6)	2 (11.8)	3 (17.6)		
5～9	67	14 (20.9)	10 (14.9)	12 (17.9)	19 (28.4)	12 (17.9)
10～15	24	4 (16.7)	4 (16.7)	4 (16.7)	9 (37.4)	3 (12.5)
Total	108	30 (27.8)	16 (14.8)	19 (17.6)	28 (25.9)	15 (13.9)



麻疹HI・CF抗体価比較

4・1・2 食中毒原因物質調査

昭和55年の県下の食中毒発生状況は、表に示すとおりである。昭和54年と比較して発生件数は3例少ないが、患者数は451名多く、表中のNo.10の事例において、590名に及ぶ患者発生があったためである。

鳥取県においては、県下で発生した食中毒事例の原因物質調査は、すべて衛生研究所が行っており、昭和55年に検査した食中毒様事件例は9件で、検体数は582検体であった。このうち細菌性食中毒例として原因菌の判明したものは、腸炎ピブリオによるもの3例、黄色ブドウ球菌によるもの1例であった。

昭和55年食中毒発生状況一覧表

No.	発生日	発生場所	摂食者数	患者数	死者数	原因食品	原因物質	原因施設	摂取場所	調理場所
1	6・10	気高郡気高町	1	1	1	ふぐ (ヒガンフグ)	動物性自然毒	飲食店	飲食店	飲食店
2	7・6	東伯郡北条町	3	1	0	ふぐ	動物性自然毒	家庭	その他	家庭
3	8・17	岡山県津山市	15	7	0	不明	不明	不明	不明	不明
4	8・19	鳥取市	205	46	0	幕の内弁当 (食品不明)	腸炎ビブリオ K-38	仕出屋	家庭 その他	仕出屋
5	8・21	岩美郡岩美町	1	1	0	ふぐ (ヒカンフグ)	動物性自然毒	家庭	家庭	家庭
6	9・7	鳥取市 八頭郡	76	26	0	旅館料理 (食品不明)	腸炎ビブリオ	旅館	旅館	旅館
7	9・17	鳥取市	15	6	0	折詰料理 (食品不明)	腸炎ビブリオ	その他	家庭	その他
8	9・24	東伯郡関金町	4	4	0	きのこ (ツキヨタケ)	植物性自然毒	採取場所	その他	その他
9	10・14	鳥取市	205	12	0	仕出し弁当 (食品不明)	黄色 ぶどう球菌	飲食店	その他	飲食店
10	11・4 ～5	鳥取市	996	590	0	仕出し弁当 (食品不明)	不明	仕出屋	事業所 その他	仕出屋
11	11・17	西伯郡名和町	3	3	0	きのこ (ツキヨタケ)	植物性自然毒	家庭	家庭	家庭
		計	1,524	697	1					

4・1・3 赤痢菌、サルモネラ、腸炎ビブリオの血清型

昭和55年度に衛生研究所が検出し、または取り扱ったサルモネラ並びに腸炎ビブリオの血清型は、表のとおりである。なお、同一患者から分離された赤痢菌の同定依頼が、保健所と病院から各1株あった。

赤痢菌、サルモネラ、腸炎ビブリオの血清型

菌	血清型(群)	件数
赤痢菌	<i>S. flexneri</i> 4a	1
サルモネラ	<i>S. sofia</i> (B)	11 (11)
	<i>S. typhimurium</i> (B)	9 (5)
	<i>S. tennessee</i> (C ₁)	3
	<i>S. typhi</i> (D ₁)	4
	Total	27 (16)
腸炎ビブリオ	O1 : K 32	1 (1)
	K 38	8
	K 56	2
	O3 : K 56	3 (1)
	O4 : K 10	2
	K 13	1 (1)
	K 63	4
	O5 : K 60	1
	O6 : K 18	2
	O10 : K 24	1 (1)
	O11 : K 51	2 (2)
	Total	27 (6)

()内はヒト以外分離再掲

4・1・4 梅毒血清反応

昭和55年度に衛生研究所が受託した梅毒血清反応は2583件である。このうち妊婦の検査は、ガラス板法、凝集法、緒方法のいずれの方法でも陽性を示したものはなかった。また妊婦を除く一般では、TPHA法を含めていずれか1法以上の陽性者は13.3%であったが、これらの中には同一人を重複して検査する場合や、医療機関でスクリーニングの上、陽性者を確認検査する場合などが含まれるので、梅毒の淫浸状況を推察する資料として、不適当な点が存在している。

梅毒血清反応検査成績

検体区分	検査法区分	検査件数	陽 性 件 数							
			ガ・凝縮 3 法	ガ・凝 2 法	ガ・縮 2 法	ガ 1 法	凝 1 法	縮 1 法	TPHA	計
妊婦	ガ・凝・縮 3 法	632	0	0	0	0	0	0	0	0
	ガ 2 法	539	0	0	0	0	0	0	0	0
	小 計	1,171	0	0	0	0	0	0	0	0
一 般	ガ・凝・縮 3 法	1,069	42 (3.9)	10 (0.9)	3 (0.3)	39 (3.7)	1 (0.1)	1 (0.1)	0	96 (9.0)
	ガ 2 法	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	ガ 1 法	80	0	0	0	0	0	0	0	0
	凝 1 法	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	縮 1 法	92	0	0	0	0	0	4 (4.3)	0	4 (4.3)
	TPHA	81	0	0	0	0	0	0	18 (22.2)	18 (22.2)
	ガ・凝・縮 定 量	59	37 (62.7)	9 (15.3)	0	1 (1.7)	1 (1.7)	0	0	48 (81.4)
	縮 定 量	27	0	0	0	0	0	22 (81.5)	0	0
	小 計	1,412								
	合 計	2,583	79	19	3	40	2	27	18	188

4・1・5 昭和55年度ウイルス感染症サーベイランス成績

昭和55年度は、新たに鳥取市内の1医院を定点に加え、鳥取市、倉吉市、米子市各2ヶ所の小児科医療機関、計6点で検体を採取し、ウイルスの分離を行った。

被検者数は1,409名で、検体別には咽頭拭い液1,390件、便28件、尿11件、髄液3件、水疱内容2件である。月別ウイルス分離状況を表1に、臨床診断別ウイルス分離状況を表2に示した。

表1 月別ウイルス分離状況

ウイルスの種類	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	材料
アデノ 1型	2				2	1	1			1	1		8	T
アデノ 2型	6	4	2	3		2	1	1		2			21	T, F
アデノ 3型					1	3	2	3	3	4	2	5	23	T
アデノ 4型	2				6	1	3	2	3				17	T
アデノ 5型					2				1				3	T
アデノ 6型			1	1									2	T
アデノ 11型												1	1	u
インフルエンザ Aソ連型	3	16	10										(30)	29 T
インフルエンザ A香港型	1	16	9										(18)	26 T
インフルエンザ B型			1	16	13								(4)	30 T
コクサッキー B ₂ 型					2	2	8	2	7	6	2		29	T
コクサッキー B ₅ 型												1	1	T
コクサッキー A ₉ 型												1	1	T
コクサッキー A ₁₆ 型	2		1	1	3	15	14	1	2				39	T
エコー 3型							1	8					9	T
エコー 9型								1					1	T
エコー 25型							1	1	2				4	T
ポリオ 1型												1	1	T
ポリオ 3型	1												1	F
単純ヘルペス	6	4	6	8	4	1		2	4	6	7	8	56	T, V
ムンプス	4	4	5	1	2	5	9	1		2	2	1	36	T
風疹						1		2		9	6		18	T
RS												1	1	T
未同定	5	7	5	1		3	3	3	6	3	2	1	39	T, F
計	32	51	40	31	35	34	43	27	28	33	22	20	(52)	396
被検者数	126	147	123	105	133	122	135	79	107	122	96	114	1,409	
分離率	25.4	34.7	32.5	29.5	26.3	27.9	31.9	34.2	26.2	27.0	22.9	17.5	28.1	

T:咽頭ぬぐい液 F:糞便 V:水疱内容 u:尿
〔 〕はサーベイランスに含まれない集団発生からの分離

表 2 臨床診断別ウイルス分離状況

臨床診断名	分離ウイルス											検 体 計 数	分 離 率									
	ア デ ノ						インフルエンザ	コクサッキー	エ コ リ	ポ リ オ	ヘ ル ペ ス			ム ン プ ス	風 疹	R S	未 同 定					
	1	2	3	4	5	6	11	AAB ソ 香 連 港	BBA ・ ・ ・ 2 5 9 16	3	9			25	1	3	ス	ス	疹	S	定	
上気道炎	6	8	8	1			5	7	19	10	2								11	86	323	26.6
インフルエンザ(様)	1	2					30	19	(4)										3	43	89	48.3
咽頭炎	3	4	6	5	1	1	2	4	5	10	1	1							10	57	208	27.4
下気道炎	1						1	1	2										6	53		11.3
肺炎	1																		1	2		50.0
ヘルパンギーナ	1	1								3	2								4	18	79	22.8
腺窩性アンギーナ	1																		1	3		33.3
ヘルペス アフタ}性口内炎									1										31	32	51	62.7
咽頭潰瘍	1																		1	1		100.0
仮性クレープ	1																		1	10		10.0
扁桃炎	1								1										2	5	25	20.0
発疹性上気道炎	1										1	2							1	4	26	15.4
発疹症									1		5		1						1	9	90	10.0
手足口症	1								1	38									40	61		65.6
突発性発疹症									1										1	51		2.0
小児仮性コレラ	1																		1	3		33.3
感冒性消化不良症							1											1	2	9		22.2
感冒性}胃腸炎	2																		1	3	27	11.1
乳幼児 ウイルス性下痢症	2																		3	6	17	35.3
腸重積症																			2	2	8	25.0
髄膜炎	1													1	3					5	13	38.5
出血性膀胱炎						1														1	8	12.5
流行性耳下腺炎									2					1	33					36	73	49.3
風疹(疑含)																	18		1	19	26	73.1
咽頭結膜熱	7	2	1				1												1	12	23	52.2
不明熱														1						1	2	50.0
PAP(疑)	1																			1	1	100.0
口唇ヘルペス+発疹									1											1	2	50.0
顔面帯状疱疹	1																			1	1	100.0

※その他に嘔吐症 5 件、嘔吐下痢症 6 件、反覆性耳下腺炎 9 件、麻疹(様) 28 件、麻疹ワクチン後の発熱 5 件、水痘 13 件、伝染性紅斑 13 件、紫斑病 4 件、熱性けいれん 4 件などがあるがいずれもウイルスは分離されなかった。

4・1・6 公共用水域におけるプランクトン調査

公共用水域の水質監視測定に際して、湖山池、東郷池、中海、美保湾の各4地点、多鯨ヶ池の3地点でプランクトン調査を実施した。プランクトンの採集は、プランクトンネット（Müllergaze No.25）による水深1 mの垂直採集を行い、各調査地点の測定値を平均して、30%以上占めるものを優占種とした。

湖山池は藍藻類5属、珪藻類9属、緑藻類2属、その他のプランクトン10属の計26属で、このうち優占種は藍藻類のMicrocystis、動物プランクトンのCeratum、Kellatella、Fillinia、Polyarthraの5属である。

東郷池は藍藻類2属、珪藻類7属、緑藻類2属、その他のプランクトン8属の計19属で、このうち優占種は珪藻類のChaetoceros、Synedra、緑藻類のSchroederia、動物性プランクトンのKellatella、Sinocalanusの5属である。

多鯨ヶ池は藍藻類1属、珪藻類1属、その他のプランクトン5属の計7属で、このうち優占種は珪藻類のMelosira、動物性プランクトンのCeratum、Polyarthra、Bosminopsisの4属である。

中海は珪藻類10属、その他のプランクトン8属の計18属で、このうち優占種は珪藻類のChaetoceros、Thalassionema、Guinardia、Ditylum、動物性プランクトンのProrocentrum、Oithona、Kellatella、Noctiluca、Mesoelimumの9属である。

美保湾は珪藻類13属、その他のプランクトン7属の計20属で、このうち優占種は珪藻類のSkeletonema、Chaetoceros、Rhizosolenia、Thalassionema、動物性プランクトンのOithona、Ceratum、Noctilucaの7属である。

